

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業箇所）

担当課：北海道開発局都市住宅課
担当課長名：小町谷 信彦

事業の概要

事業名	文教通	事業区分	街路	事業主体	北海道
起終点	自：北海道函館市日吉町1丁目 至：北海道函館市高丘町			延長	1.4Km
事業概要	文教通は函館市東部において函館市中心部と旧南茅部町方向及び函館空港を連結する幹線街路である。本事業は、湯の川温泉街付近における2箇所の渋滞ポイントを解消するため、当該箇所をバイパス整備するものである。				
事業の目的、必要性	湯倉神社前交差点及び湯川寺交差点は、CO ₂ 削減アクションプログラムに位置づけられた主要渋滞ポイントであり、本事業は両交差点をバイパス整備し、交通を分散させることによって渋滞ポイントの解消を行い、円滑な都市内交通の確保を図るものである。				
全体事業費	58億円	計画交通量	6,500台/日		
事業概要図					

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.0	総費用：41億円 （事業費：40億円 維持管理費：1.1億円）	総便益：80億円 （走行時間短縮便益：75億円 走行費用減少便益：3.0億円 交通事故減少便益：1.9億円）	基準年 平成18年
	感度分析の結果		交通量変動 B/C=2.1 (交通量+10%)	B/C=1.8 (交通量-10%)	
			事業費変動 B/C=1.7 (事業費+10%)	B/C=2.1 (事業費-10%)	
			事業期間変動 B/C=1.8 (事業期間+20%)	B/C=1.9 (事業期間-20%)	
事業の影響	評価項目	評価	根拠		
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	北海道内センサス区間の上位2割に含まれる区間の渋滞を解消する。主要な渋滞ポイントを解消する。 渋滞損失時間の改善 5.20万人時/年 5.09万人時/年(0.11万人時/年削減される) 渋滞度曲線 北海道内センサス区間で、上位2割の渋滞損失時間の区間を解消 その他の特徴 主要な渋滞ポイントの解消(湯川寺交差点 現況旅行速度21.6km/hr)		
		事故対策	死傷事故率が高い区間の事故減少が見込まれる。 死傷事故率 114件/億台キロ(現況) (死傷事故比(道内平均比)1.67)		
		歩行空間	歩行者・自動車の安全性向上 ・現在歩道が無い区間に歩道が設置される。 ・通学路であり、歩行者交通量(508人/日)、自転車交通量(624台/日)ともに多く、幅員4mの歩道を設置(両側歩道)。		
	社会全体への影響	住民生活	高次医療施設へのアクセス向上 ・三次救急医療病院市立函館病院への時間短縮に寄与する道路である。 函館市南茅部支所～市立函館病院の所要時間(67分 62分)		
		地域経済	地区の一体的発展の支援 ・河川等により分断されている地区の解消により、地区の一体的発展を支援する。		
		災害	緊急輸送路・避難路もしくは代替路を形成 ・分断地区の解消による災害時の安全性の向上。		
		環境	CO ₂ 排出量の削減 ・CO ₂ 排出削減量：578t/年		
	地域社会	主要な観光地へのアクセス向上 ・主要な観光地であるトラピスチヌ修道院へのアクセス向上が図られる。			
事業実施環境	道路の整備に関するプログラム等への位置づけ ・都市計画マスタープランにおいて位置づけあり				

関係する地方公共団体等の意見
本事業により主要幹線道路の渋滞ポイントが解消されるとともに、歩行者の交通安全確保や緊急時の支援や災害時の避難への活用による都市機能の向上など、地域経済活動の各方面における効果が期待され、地元町内会を始め周辺地区、自治体等からも強く早期着工を望まれている。

事業採択の前提条件
便益が費用を上回っている。
都市計画決定済。
円滑な事業執行の環境が整っている。

採択の理由
費用便益比が2.0と、便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続が完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
また、並行道路の現況渋滞損失時間及び事業実施による改善はともに大きい。また、河川等により分断されている地区を解消し一体的発展を支援することから、道路の必要性・効果は高いと判断できる。
以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額と割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。